

業務部速報

No. 58

発行 15. 3. 13

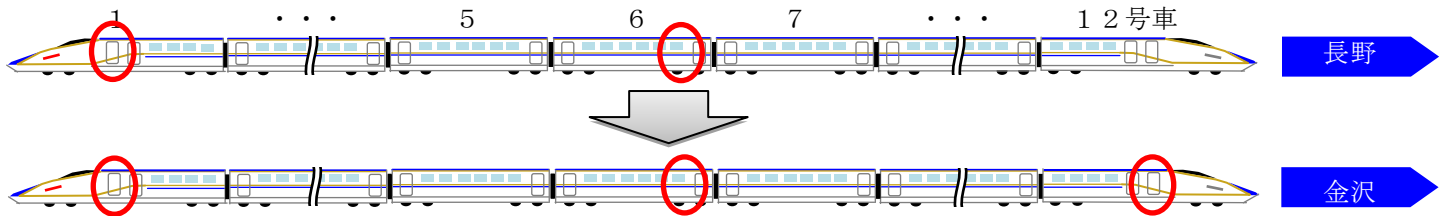
JR東労組 業務部

申21号 新幹線のサービス品質向上を求める緊急申し入れ

申し入れのポイント

ダイヤ改正を直前にし、上越新幹線の一部駅において「レピータが見えにくい」「乗降終了合図が聞こえにくい」等の意見が出され、再確認を行った結果、再度設備調整を行う事となりました。よって、今回の「ドア扱い変更の取扱い」は北陸新幹線のみの実施となります。しかし、新幹線車掌の基本動作やドア扱いの統一性が崩れることとなります。従って、複数線区を乗務する職場の安全を確保するために、緊急申し入れを行い、団体交渉を行いました。

1項、東北、上越、北陸の各新幹線での「車掌のドア扱いの方法変更」は、全ての設備改修を行い、安全性を確立した上で、全線区統一して実施すること。



先頭車でのドア扱いが追加

組合 (ダイヤ改正) 大きな施策にも関わらず設備改修の不備は、準備不足だ!

会社 ・北陸と上越新幹線を同時に実施する計画であった。計画の変更だという認識である。
・設備改修を行ってきたが、整備不足に対し、今回はベストな選択をとった。

組合 新幹線車掌の「取扱いの統一」を基本とするべき。線区で違うのは安全の低下だ!

会社 あるべき姿として基本動作は一つである。今回はライン(線区)で統一し問題ない

組合 **上越と北陸のドア扱いを同様にすべき** **対立**

・丸の内車掌区は東北、北陸の込み行路がある。ヒューマンエラーが危惧される。
・ドア扱いの変更は、現車を使つての訓練をしていない。いきなり実施でいいのか!

会社 現車訓練は望ましいが、指導が中心となり写真などを用いて訓練をした。

組合 車掌の訓練が不十分である。この状況を作ったのは会社の責任。見解示せ!

会社 「…(無言)…」計画がずれたことはあるべき姿ではない。同じ事が起きないようにする

「責任の所在」を明確にせず

問題を断定できない! 経営の“質”の問題だ!

ダイヤ改正以降も検証を継続し、

職場から問題解決に向けて運動を積み上げよう!